



図書館だより

NO.284 2022年1月号
(2022年1月5日発行)

はつかいち市民図書館
電話 (0829) 20-0333
廿日市市下平良 1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>



100冊
どくしよてちよう
読書手帳



発行元：はつかいち市

どくしよてちよう

50 さつばん



新しい年のはじまりに、 読書記録をつけてみませんか？

読んだ本を記録しておける「100冊読書手帳」と「どくしよてちよう」(50さつばん)を、はつかいち・大野・さいき図書館の窓口で配布しています。

「今年は100(50)冊本を読むぞ!」と目標を決めてつけ始めるのもよし、「今年は何の本を読んだか記録を残しておこう」とつけ始めるのもよし、この機会にぜひ手に取ってみてください。

また、記入し終わった手帳を図書館に持ってくると、記念のしおりをプレゼントしています。50冊、100冊、200冊(各館限定柄)、300冊以上達成ごとに絵柄が違うので、やりがいがありますよ。

※小中学生の読書啓発を目的に作成したのですが、大人の方にもご利用いただけます。



----- 今月の展示 -----



《中央展示》

『子ども司書おすすめの本』

廿日市市教育委員会主催で、廿日市市内の小学6年生を対象とした、令和3年度「子ども司書」養成講座が行われました。子ども司書たちが作ったおすすめの本を紹介するPOPと、子ども司書になるために読んだ本を集めて展示しています。

《企画展示》

『おかしな本 あつめました!』

ヘン? 不思議? おもしろい?
一風変わった“おかしな本”を集めて展示しています。



展示期間：1月5日(水)～1月26日(水)

さくらの小部屋 第35回



みなさん、あけましておめでとうございます！

はつかいち市民図書館広報担当の はつかいちさくら です。

本年もどうぞよろしくお願いいたします🌸

今回は、ホームページの「読書マラソン」の機能について ご紹介したいと思います！

1ページ目で「読書手帳」についてご案内しましたが、ホームページでも借りた本の冊数を記録できる「読書マラソン」の機能があります。

ホームページの「利用者のページ」にログインした後、「利用照会メニュー」の「読書マラソン」のページを開くと、目標設定をすることができます。

例えば、「2022 年は本を 100 冊借りて読む！」と目標を決めて設定したら（右図参照👉）、

「読書マラソン」のページを開く度に目標達成度を教えてくれます（下図参照👉）



読書マラソン目標設定

読書マラソンの目標設定画面です。※初期値は図書館で指定した値になっています。

読書マラソン	☐ 使用しない ☒ 使用する
期間設定	☒ 年度 ☐ 月単位
目標期間	2022 (例) 年度: 2020、月単位: 2020/04 ~ 2020/12
目標冊数	100
グラフ	☐ 表示しない ☒ 表示する

こちらだと設定するだけで、自動的に図書館で借りた本がカウントされていくので楽ですよ！
※ただし、図書館で借りた本以外はカウントされませんのでご注意ください。

新しく入った本(一般書)

図書館には1カ月に約500冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

『100万回死んだねこ』福井県立図書館／編著 講談社 015.2ヒ

『すべてはノートからはじまる』倉下忠憲／著 星海社 S159キ

『子育ての「呪い」が解ける魔法の言葉』浅野みや／著 自由国民社 378フ

『あなたが手術を受ける前に読む本』名古屋市立大学／編 中日新聞社 494.2フ

『人気レストランの注目の調理機器科学的調理法』旭屋出版編集部／編著 旭屋出版 596ニ

『よく使うイタリア語の慣用句 1100』竹下ルツジェリアンナ／著 秋山美野／著 白水社 874.4タ

『このミステリーがすごい! 2022年版』『このミステリーがすごい!』編集部／編 宝島社 901.3コ22

『君の顔では泣けない』君嶋彼方／著 KADOKAWA Fキ



関谷裕子さん講演会『読み継がれる絵本やお話を目指して』を

開催しました

関谷裕子さんは、株式会社こぐま社の元編集長として長年、本作りの現場に携わってこられました。絵本の専門出版社であるこぐま社は「こぐまちゃんえほん」「わたしのワンピース」「11ぴきのねこ」など、数多くのロングセラー絵本の他、世界の昔話を豊かな言葉で紡ぎ、ストーリーテリングのテキストとしても定評のある「子どもに語るシリーズ」を出版しています。関谷さんには、この2つの軸を中心に、お話いただきました。1月号は、講演の前半に語られた、こぐま社の絵本作りについてのお話をレポートします。



～手作りの強さや美しさを子どもたちに伝えたい～

1966年、こぐま社は「日本の作家による、日本の子どもたちのための、創作絵本を作りたい」という思いから佐藤英和さんが創業しました。1作目の絵本「ほしのひかった そのぼんに」から、通常、赤・青・黄・黒の4色の点の重なりさとうひでかずの大小で表現されるカラー印刷を、赤は赤、青は青というようにそれぞれのインクを用いて刷る版画方式の印刷（特色印刷）で作られています。絵の描き手は色ごとに絵を描く必要があり、手間がかかりますが、佐藤さんの「手作りの強さや美しさを子どもたちに伝えたい」という情熱によるものです。「こぐまちゃんえほん」のオレンジ色や、「わたしのワンピース」の黄緑色は、この方法だからこそ出せる濁りがない色だそうです。

<「わたしのワンピース」秘話>

西巻茅子さんの「わたしのワンピース」は、こぐま社を代表する絵本の一つで、絵が主体の作品です。しかし当時、「こぐまちゃんえほん」を作り、こぐま社のプレーンでもあった和田義臣さんや、森比左志さんにしまさかやこから「お花畑を通っただけでワンピースが花模様になるのは飛躍がある。文章が必要じゃないか」と言われたとのこと。いざ出版されると、子どもたちはそういうことは気にせず、西巻さんは「子どもたちが残してくれた本」と、今でも仰っているそうです。

<こぐま社の社員数>

関谷さんが入社した当時のこぐま社の社員数は7人ぐらいだったそうですが、40年以上経つ現在も20人足らずとのこと！ 創業者の佐藤さんは「会社を大きくしない。会社を大きくすると、その人数を養うためたくさんの本を出さないといけないが、それはしたくない」という意味があったそうです。

～絵本の読者は子ども～

こぐま社の絵本作りで特に大切にされていることは、「字を読むに至っていない子どもが絵本の読者」ということです。編集者の仕事として、作家のアイディアに対し、自身が面白いと思うかどうか、それと同じくらい、子どもがリアリティを持って面白いと思えるかどうかということが大切で、それを作家に誤解なく伝えるのはとても難しいことだと話されていました。絵本の読者は子どもである以上、子どもがどう読むかがすごく大事で、制作（製作）方法は変わってきても、それは変わらないでほしいと仰っていました。

～絵がストーリーを語る絵本を～

また、子どもが字を読めなくても、絵の展開から物語を読めるような、絵本でしかできない表現をしたいという思いも常に持たれているとのことでした。創業者の佐藤さんが「絵で語る絵本を作りたい」ということで、もともと漫画を描いておられた馬場のぼるさんばば（「11ぴきのねこ」シリーズ）や多田ヒロシさん（「ふうとぴょん」シリーズ）に声をかけた理由は、漫画家はストーリーと絵を一緒に考えて、絵で進めていくからで、それは的確なことだったのではないかと関谷さんは仰っていました。

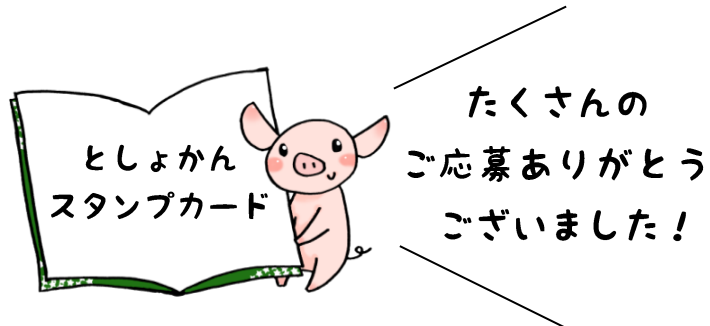


～絵本の前に実体験を わらべうた絵本～



絵本の読者（保護者）が送り返してくれた「愛読者カード」を読んでいて、関谷さんは、想定の対象年齢よりも早い時期に子どもに絵本を与えていると感じたそうです。その当時、ちょうどご自身も育児中だったこともあり、絵本を与える前にすべきことがあるのではないかと思います。制作されたのが、「わらべうた絵本」のシリーズです。30年前、娘さんが通われていた保育園でわらべうたをされていたことがきっかけで、家庭でもやってほしいと思い、そのために絵本を作る価値があるのではないかとされたそうです。

1作目の「あがりめ さがりめ」を、ましませつこさんに「歌や温かみ、伝承的な雰囲気が伝わり、やり方がわかるような絵で」と依頼。最初は会社の中でも、なぜわらべうた絵本を出すのか疑問もあったそうですが、現在、シリーズは図書館など様々な場所で人気があり、やってよかったと仰っていました。子育てする人と子どもの間に人間関係ができ、実体験をたくさんし、そこに絵本が入ることで想像力が広がる、という言葉が印象に残りました。



10月29日（金）～11月28日（日）の期間、「としょかんスタンプカード」を発行し、本を1冊借りる毎にスタンプを1個押印して、20個集めると雑誌の付録等を抽選でプレゼントするイベントを行いました。

配布数 1500 枚 応募数 775 枚
当選数

- ・女性向け 50 個（応募数 278）
- ・男性向け 62 個（応募数 79）
- ・女の子向け 38 個（応募数 233）
- ・男の子向け 35 個（応募数 185）

計 185 個（応募数 775）

期間中、たくさん本を借りてくださってありがとうございました！

1月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1 休館
2 休館	3 休館	4 休館	5	6	7 ◎	8 ☆
9	10	11	12	13	14	15 ◆
16	17	18	19	20	21 ◎	22 ☆
23	24	25	26	27 休館	28	29
30	31					

ぬいぐるみの クリスマスおとまり会 をおこないました！



12月23日（木）に図書館で「ぬいぐるみのクリスマスおとまり会」を行いました。

図書館の書庫で持ち主の子どもたちの本を選んだ後、ぬいぐるみたちだけのおはなし会をして、一緒に眠りました。

お迎えの日は、おとまり会の様子を撮った写真のクリスマスカードと、ぬいぐるみたちが選んだおすすめの本3冊を借りて、持ち主の子どもたちと一緒にうちに帰っていきました。

◎ ちいさいこのためのおはなし会

【対象】乳幼児

【時間】1回目 10時30分～

※整理券配布時間 10時10分～10時20分

2回目 11時～

※整理券配布時間 10時40分～10時50分

☆ おはなし会

【対象】幼児～小学校低学年

【時間】11時～

※整理券配布時間 10時40分～10時50分

◆ ストーリーテリングのおはなし会

【対象】5歳～大人

【時間】11時～

※整理券配布時間 10時40分～10時50分

相談カウンターで整理券を配布しています。
配布時間が決まっていますので、ご注意ください。